（様式３）

令和元年度　福井型コミュニティ・スクール　実施報告書

福井市鷹巣小学校

１「家庭・地域・学校協議会」の運営について

（１）「家庭・地域・学校協議会」の構成

組織図」（鷹巣幼小中）

学校（５名）

地域（９名）――― 保護者（１名）

（鷹巣校区より）・自治会連合会・青少年育成市民会議　・育成会　・民生児童委員　・交通安全協会・公民館　・婦人会　・同窓会　・社会福祉協議会
（保護者）ＰＴＡ会長
（学　校）校長　・教頭(2)　・教務(2)
（地域コーディネーター）　公民館主事・連合会長
社会福祉協議会会長・民生児童委員

（２）協議会の内容

○開催回数　　３回
○開催日程　　第１回　　６月１９日（水）
　　第２回　１１月２４日（日）
　　第３回　　２月２６日（水）
○協議内容
第１回「本校の教育課程」
　　「中学校区の教育プラン」
第２回「教育活動の参観」
第３回「学校評価の結果と次年度に向けて」
　　（教育活動の振り返り）
　　（全体会と小中での意見交換）

（３）協議会における成果と課題

協議会では学校の地域と共に行っている諸活動のことを紹介し、ご意見をいただいた。また、学校評価ではいろいろな意見が出てきたが、それらを真摯に受け止め、今後の学校運営に生かしていく。

２　地域と進める体験活動

（１）活動のねらい

地域資源を活用した学習活動の場を設定し、ふるさと鷹巣に誇りと愛着を持つ児童を育成する。

（２）活動の実際

①砂浜マラソン・海岸段丘マラソン（全学年）

鷹巣中学校区である鷹巣、長橋それぞれの地域の特性を生かして、年間２回春秋にマラソン大会を実施している。

春は鷹巣海水浴場の砂浜をコースにした「砂浜マラソン」、秋は長橋校区の海岸段丘を走り抜く「海岸段丘マラソン」である。これらは、保護者や地域住民の方々の応援を受けての伝統行事となっており、お互いの得意な地で力を競り合うよい機会とも言える。また、校区にある認定こども園鷹巣ひかりの園児も、春のマラソンには一緒に参加している。

春の砂浜マラソンでは、砂に足をとられながらの力走が見られ、秋の海岸段丘マラソンでは、アップダウンの激しいコース（園児 500m、1･2 年生 700m、3･4 年生 1300m、5･6 年生女子 2000m・男子 2600m）を歯を食いしばって走る姿が見られる。児童にとっては、青い空、青い海のそばで練習の成果を力一杯出し合い、応援し合う心温まる交流の場となっている。

二つのマラソンとも保護者だけでなく、地域の人たちもたくさん応援に参加している。これらの声援が児童たちの背中を押すことになり、持っている以上のものを出す無形の力となっている。

（様式３）

②わが町鷹巣　学習発表会（１，２学年）

わが町たかす　学習発表会を行い、この１年間、鷹巣幼小学校として、地域に開かれた教育課程をめざし、地域ともに学んできた学習の成果を発表した。

幼１２年生は、生活科の時間を中心に、鷹巣の地域について学んできたことを、５年生は、鷹巣の米・梅・わかめについて体験学習してきたことを地域の人たちの前で発表した。さらに３年生は、鷹巣の防災について、４年生は鷹巣の福祉について、６年生は鷹巣の伝統文化について、それぞれ総合的な学習の時間に地域について体験して学んだことをポスターセッション形式で発表し、ワークショップを開いた。また、地域文化の継承として、鷹巣地区に伝わる文化の披露も行った。

このようにして、子ども達は、鷹巣に誇りと愛着をもち、ふるさと鷹巣に関わる体験学習を行った。

（３）地域コーディネーターの活動概要

列記した活動だけでなく、小学校の総合的な学習でも支援をお願いし、ゲストティーチャーとして子どもたちへの支援をお願いした。さらに社会に開かれた教育課程ということで、できる限り地域資源を活用した授業を行い、アドバイザーとしての活用をお願いした。

（４）特に工夫した事項

社会に開かれた教育課程に心がけ、できるだけゲストティーチャーを活用するようにした。そして、地域の人からの意見や考えに耳を傾け、鷹巣の財産に気づかせると共に、これからの鷹巣はどうあるべきか提言する授業を取り入れた。

（５）成果と課題

本校では、年間を通して全ての学年が教科や総合的な学習の時間、あるいは学校行事等で地域に出かけている。上述した以外にも、ワカメ干し体験や漁港見学、漁船乗車など、地域特有の文化にも触れている。また、日頃より児童の登下校時の安全確保や読み聞かせによる読書指導など、保護者や公民館などの各種団体、地域が一体になって児童の健やかな成長を支援する体制が整っている。こうした中で子どもたちは、地域に生きる方々の願いを知り、自分たちが生まれ育ったふるさとの姿に対する興味・関心を高め、ふるさと鷹巣を愛する気持ちが芽生えてきている。

これからも、地域の方々と地域にある資源に誇りをもち、自立の心を育むふるさと教育を創造していきたい。今後の課題としては、学んだことから考えを深め、地域の未来に向けて提言・発信するなど、活用力に重点をおいた取り組みを目指していきたい